

第九回

深掘り!

京博バックヤード

その五

(文化財

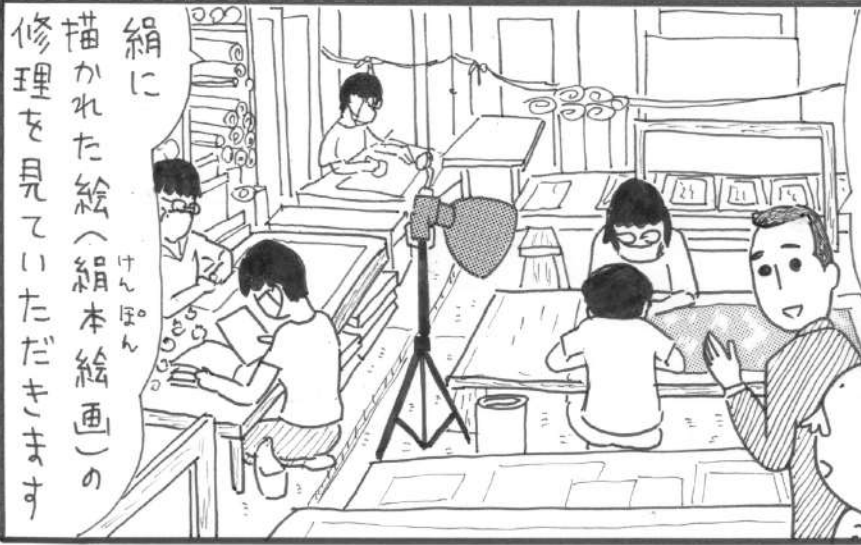
保存修理所

その三)



文化財保存修理所の
工房めぐり次なる見学は

こちらは
岡墨光堂さん



絹に
描かれた絵(絹本絵画)の
修理を見ていただきました

こちらが現在
修理中の
絵巻物とその
損傷地

絹地に
描かれた絵は
紙とはまた
違った劣化を
するんですよ

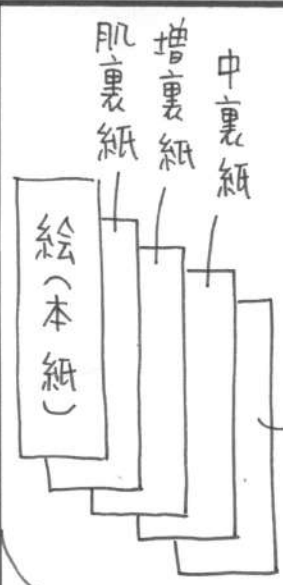
傷んでいる
ところ
多い
ですね



岡墨光堂
取締役
岡岩太郎さん



掛軸や巻子(巻物)など
表具は絵の裏面に
3層から4層の
裏打紙で補強
してあるのですか



修理をする際
この裏打紙を
取り除いていきます

えっはがれるんですか?

はい表具は定期的な
修理を前提に
製作されているんです







そして本紙の絹の組織と同じか近いものも使うのですが

新しい絹を古い絹の欠失箇所埋めると強度が異なり損傷の要因になることがあります

なるほど



はい日本原子力研究開発機構というところをやっています

ななんか職人の世界からえらいところに飛びますね



なので電子線をあてて人工的に劣化させてから使います

で...電子線!?



その色は本紙鑑賞の妨げとならないような本紙より静かにさかして見える色にします

静かに...さかして...なんか深い...



そして補絹を行った箇所が目立たなくなるように色を塗る作業「補彩」を行います



もちろんオリジナルを尊重して

画像や文字なども描いたりというようないつて的補筆はしません

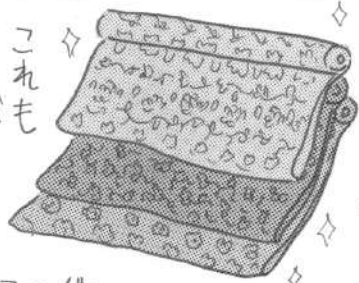


書画の修理には実に
様々な伝統的
な材料が
使われます

様々な和紙
裏打紙に使われる

裂に使われる表装

これもお手織り



その他
軸木 金具 紐 等々

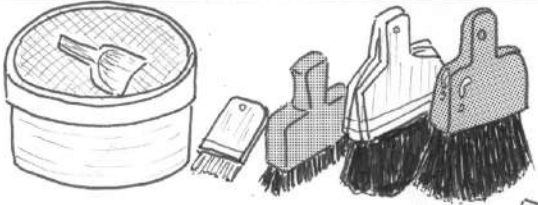
みんな一枚一枚手作り



屏風の裏面に貼る唐紙



そして使われる道具もまた伝統的で職人さんによって作られます



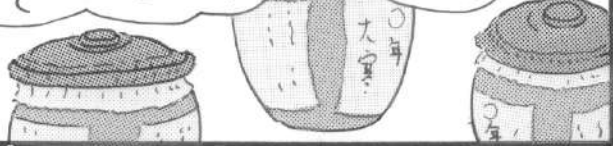
普通のお店じゃ売ってないようなモノばかりですね



はい裏打紙につける小麦澱粉糊などは各工房で手作りしています
年に一度冬には「寒糊吹き」があるんです

寒糊
吹きで
作った糊は
寝かせて
おきます

裏打紙によつて新しい糊と古い糊を使い分けています



一月には「こちも」
「へー」

肌裏紙は本紙をしっかりとさせるため新しい糊を

そのあとに重ねる裏表打紙は



